Nikon

ライトタッチ ズーム 70Ws QD

使 用 説 明 書

Lite•Touch Zoom70Ws QD

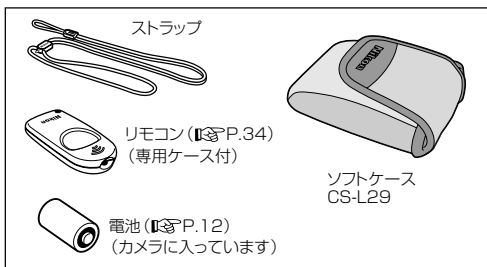
このたびは、ニコン Lite･Touch Zoom（ライトタッチズーム）70Ws QDをお買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用の前にこの「使用説明書」をお読みのうえ、十分に理解してから正しくお使いください。

このカメラの主な特長

■ 焦点距離28～70mmまでの約2.5倍ズームを内蔵した35mmコンパクトカメラ。（☞P.18）

本文中に使われているマークについて

- 前提条件や制約などの要チェック項目が書いてあります。
- 注意していただきたいことや守っていただきたいことが書いてあります。
- ◉ 補足内容が書いてあります。
- ☞ 参照ページが書いてあります。

付属品（お確かめください。）

■保証書とカスタマ登録カードについて

この製品には保証書とカスタマ登録カードが付いていますのでご確認ください。保証書の詳細は、「アフターサービスと保証について」（☞P.41）をご覧ください。

■使用説明書について

使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、当社サービス機関で新しい使用説明書をお求めください（有料）。

もくじ

1 お使いになる前の準備

2 基本的な撮影

3 応用撮影

4 知っておいてください

安全上の注意と表示について

ご使用のまえに「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は次のようになっています。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例	
	△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容が（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⊘記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合は電池を取り出す）が描かれています。

⚠ 警　告（カメラについて）

分解禁止

分解したり修理·改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。
電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

電池を取る

すぐに修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。
電池を取り出す際、やけどに十分注意してください。
電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨に濡らしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

使用禁止

引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。

警告

ストラップが首に巻き付かないようにすること
特に幼児·児童の首にストラップをかけないこと

首に巻き付いて窒息の原因となります。

保管注意

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

見ないこと

ファインダーより直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります。

⚠ 警　告（カメラについて）

発光禁止

車の運転者等にむけて、スピードライトを発光しないこと

事故の原因となります。

発光禁止

スピードライトを人の目に近づけて発光しないこと

視力障害の原因となります。
特に乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。

⚠ 注　意（カメラについて）

感電注意

ぬれた手でさわらないこと

感電の原因になることがあります。

保管注意

製品は、幼児の手の届かない所に置くこと

ケガの原因になることがあります。

保管注意

使用しないときは、スライドカバーを閉じて太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光が焦点を結び火災の原因になることがあります。

移動注意

三脚にカメラを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。

⚠ 警　告（電池について）

禁止

電池を火に入れたり、加熱しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

分解禁止

電池をショート、分解しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

電池に表示された警告･注意を守ること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

使用説明書に表示された電池を使用すること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

保管注意

電池は幼児の手の届かない所に置くこと
幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

警告

電池の「＋」と「－」の向きを間違えないようにすること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

水かけ禁止

水につけたり、濡らさないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

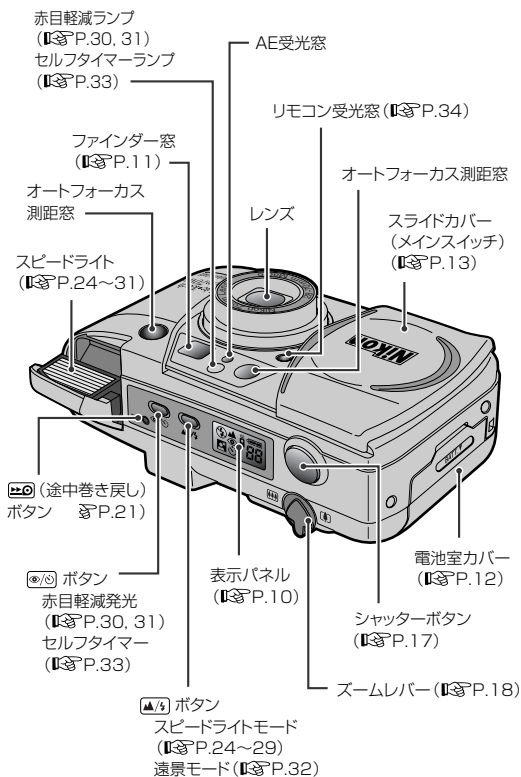
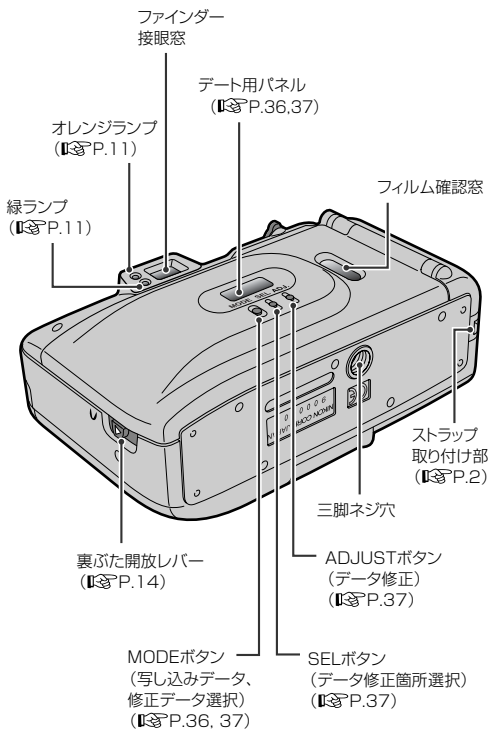
禁止

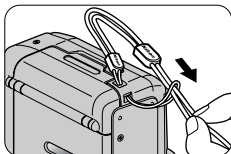
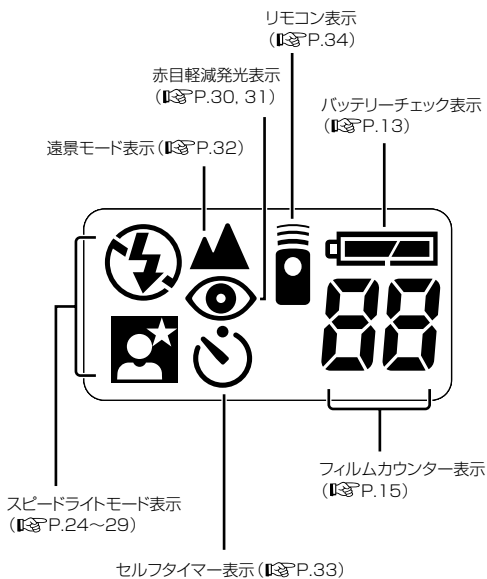
充電式電池以外は充電しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

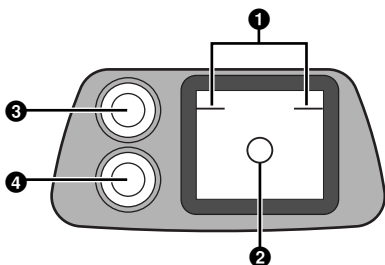
警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること
他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。
お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。

各部の名称（本体）

赤目軽減ランプ
（☞P.30, 31）
セルフタイマーランプ
（☞P.33）
AE受光窓
リモコン受光窓（☞P.34）
ファインダー窓
（☞P.11）
オートフォーカス測距窓
オートフォーカス
測距窓
レンズ
スライドカバー
（メインスイッチ）
（☞P.13）
スピードライト
（☞P.24〜31）
Nikon
BATT.
（途中巻き戻し）
ボタン ☞P.21）
電池室カバー
（☞P.12）
ボタン
赤目軽減発光
（☞P.30, 31）
セルフタイマー
（☞P.33）
表示パネル
（☞P.10）
シャッターボタン
（☞P.17）
ズームレバー（☞P.18）
ボタン
スピードライトモード
（☞P.24〜29）
遠景モード（☞P.32）

ストラップの取り付け方

図のようにストラップを
通します。

表示パネル

※ 図は説明のために全ての表示を点灯させたものです。

ファインダー内の表示内容

❶近距離補正マーク（☞P.35）

望遠側で撮影距離が1mより近い撮影のときに使用します。

❷オートフォーカスフレーム（☞P.19）

ピントを合わせたいものをこのフレームに重ねてピントを合わせてください。

❸オレンジランプ（☞P.24）

フラッシュが充電中はゆっくり点滅し、充電が完了すると点灯します。また、上にあがったスピードライト部を押すと早く点滅して警告します。

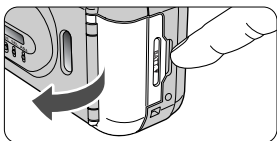
❹緑ランプ（☞P.19）

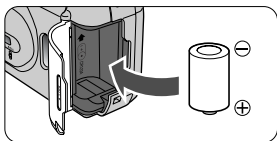
ピントが合うと点灯します。近接撮影時に、被写体までの距離が約0.8mより近い場合は、点滅して警告します。

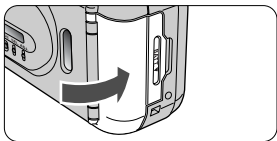
電池を入れる

使用する電池

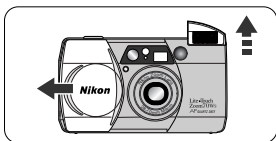
このカメラには3VリチウムCR123A、またはDL123Aを1個を使用します。

1. 電池室カバーを開ける。

◉ 電池室カバーを矢印の方向に開きます。

2. 電池を入れる。

◉ 電池の⊕／⊖の表示を正しく合わせ、図のような向きで入れます。⊖側を先に押し込むようにして入れてください。

3. 電池室カバーを閉じる。

◉ 電池室カバーがカチッと音がするまでしっかり押してください。

電源を入れる

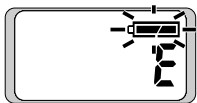
スライドカバーを開ける。

◎ スライドカバーを矢印の方向に開けると電源が入り、内蔵スピードライトがポップアップし（上がり）、レンズが繰り出します。

◎ カメラを操作しない時間が約2分間経過すると、レンズが自動的に [W]（広角）側に戻ります。

スライドカバーはカチッと音がするまで引いてください。

> カメラをご使用にならない時は、電源の消耗を防ぐためにスライドカバーを閉じてください（電源が切れます）。
> スライドカバーを閉じるときは、はじめにカバーを少しスライドさせてレンズが収納されてから、ゆっくり閉じてください。

電池容量を確認する

バッテリーチェック“[電池マーク]”表示を確認する。

表示	説明
点灯	電池容量は十分です。
点滅	電池容量が少なくなっています。新しい電池との交換をおすすめします。
消灯	電池を交換してください。

撮影の前には、必ず電池容量を確認してください。

撮影の際は、新しい予備の電池をご用意ください。海外の地域によっては、電池の入手が困難な場合があります。

フラッシュの充電時間が長くかかるようになりましたら、電池を交換してください。

フィルムを入れる

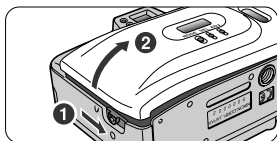
35mmフィルムの豆知識

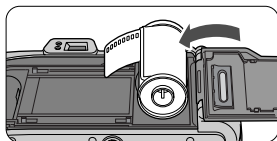
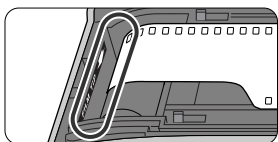
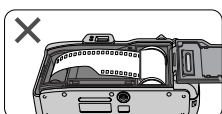
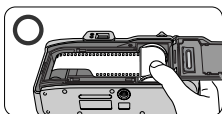
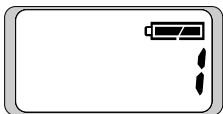
- このカメラには、35mm DXマーク付フィルムをご使用ください。
- DXマーク付フィルムを使用すると、フィルム感度はカメラが自動的にセットします。自動セットが可能なフィルム感度はISO100、400です。（DX以外のフィルムまたはDX ISO200フィルムを使用した場合、感度は自動的にISO100にセットされます。また、DX ISO800のフィルムを使用した場合、感度は自動的に ISO400にセットされます。）

フィルムをカメラに入れるときは、直射日光の当たらない所で行ってください。

ご使用になるフィルムについて

フィルムの感度は、手ブレ防止やフラッシュ撮影に有利なISO400をおすすめします。

1. 裏ぶたを開ける。

- 裏ぶた開放レバーを矢印の方向にスライドさせて（❶）裏ぶたを開けます（❷）。

2. フィルムを入れる。

3. フィルムの先端を赤色のマークに合わせる。

⊙ フィルムが浮かないようにパトローネを指で軽く押さえてください。

4. 裏ぶたを閉じて、フィルムが正しく送られているか確かめる。

⊙ フィルムが正しく送られると、電源を入れた時、フィルムカウンターに“1”が点灯表示されます。

フィルムカウンターに“E”が表示されているときは、フィルムが正しく送られていません。、裏ぶたを開けフィルムを取り出して、入れ直してください。

大切な撮影の前には試し撮りを

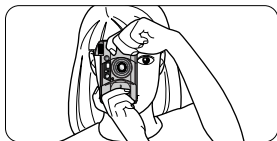
大切な撮影の際には、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能するか確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸経費及び利益の喪失等に関する損害）についての補償はご容赦願います。

カメラを構える

カメラをしっかり構えます。

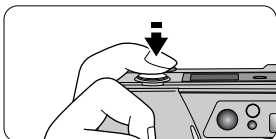
〈横位置の構え方〉

⊙ わきをしめ、ひじを体につけて、両腕でしっかり構えます。

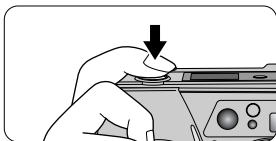
〈縦位置の構え方〉

⊙ 縦位置で撮影する場合は、スピードライトが上になるように構えます。

- 手や髪の毛、ストラップなどで、レンズやオートフォーカス測距窓、スピードライトなどをおおわないように注意してください。
- ポップアップしたスピードライト部を押し込まないように注意してください。

シャッターボタンを押す

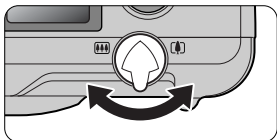
1. シャッターボタンを軽く押して途中で止める（この操作を“半押し”と呼びます）。

⊙ “半押し”するとピントと露出が決まり緑ランプが点灯します。

⊙ “半押し”中はピントが固定（フォーカスロック☞P.22）されます。

2. “半押し”したまま、さらにシャッターボタンを押し込むとシャッターがきれます。

⊙ 被写体が暗い場合は、フラッシュが自動的に発光します。

一気にシャッターボタンを押すと手ブレの原因になります。シャッターボタンはゆっくりと押し込んでください。

ズーミングする

ズームレバーを押して被写体の大きさを決める。

- 方向に押すと、望遠（70mm）側になり、方向に押すと、広角（28mm）側になります。
- 好みの大きさになったらズームレバーから指を離します。

カメラを操作しない状態が約2分間続くと、レンズが自動的に（広角）側に戻ります。

望遠側の作例

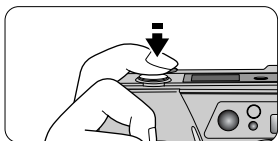
広角側の作例

撮影する

1. ピントを合わせたいものにオートフォーカスフレームを重ねる。

写したいものがオートフォーカスフレームから外れている構図のときは

ピントを合わせたいものがオートフォーカスフレームから外れる構図のときは、フォーカスロックによるピント合わせをしてください。（☞P.22）

2. シャッターボタンを半押しする。

緑ランプの点灯と点滅について

ピントが合うと緑ランプが点灯します。

●緑ランプが**点滅**する。

………被写体に近づきすぎです。約0.8m以上離れてください。

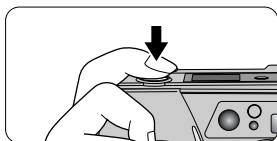
次のページにつづく

撮影する(つづき)

※1 オレンジランプが点滅しているときは、フラッシュが充電中のためシャッターがきれません。オレンジランプが点灯してからシャッターをきってください。

※2 スピードライト部を指などで押し下げると、オレンジランプが早く点滅して知らせます。この場合、シャッターはきれますがフラッシュは発光しません。

※3 撮影距離が約0.8mより近づくと、シャッターボタンを半押ししても緑ランプが点滅し、シャッターがきれません。離れた位置で半押しし直して、緑ランプの点灯を確認して撮影してください。なお、撮影距離が極端に近すぎるときは、制御範囲を超えるためシャッターがロックされない場合があります。

3. シャッターボタンをゆっくり押し込む。

⊙ スピードライト自動発光モードにセットされているときに、写したいものが暗い場合は、フラッシュが自動的に発光します。

一気にシャッターボタンを押すと手ブレの原因になります。

撮影しないときは、スライドカバーを閉じて、電池の消耗を防いでください。

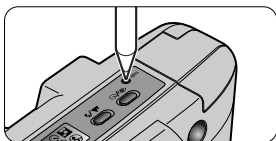
スライドカバーを閉じるときは、はじめにカバーを少しスライドさせてレンズが収納されてから、ゆっくり閉じてください。

フィルムの巻き戻しについて

フィルムの巻き戻しは自動です。

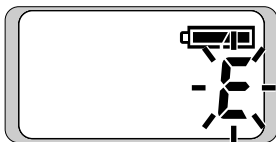
- ◉ フィルムを撮り終わると自動的に巻き戻しが始まります。
- ◉ 巻き戻し中はフィルムカウンターの数値が1枚ずつ減り、巻き戻しが完了すると“E”が点滅します。
- ◉ 電池容量不足のために巻き戻しが途中で止まったときは、電池を交換すると、巻き戻しが自動的に再開されます。

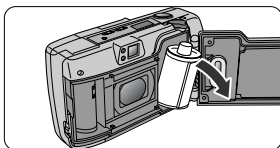
“E”が点滅するまで、裏ぶたを開けないでください。

フィルムを途中で巻き戻すには

(途中巻き戻し)ボタンをストラップの止め具の突起やボールペンの先端などで押します。

- ◉ 巻き戻しが始まればボタンを押し続ける必要はありません。

フィルムを取り出す

1. 巻き戻し完了“E”の点滅表示を確かめる。

2. 裏ぶたを開け、フィルムを取り出す。

基本的な撮影

写したいものが画面中央にない構図のときは

フォーカスロック撮影

ピントを合わせたいものが、画面中央のオートフォーカスフレームから外れる構図のときは、ピントを固定したまま構図を自由に変えられるフォーカスロックを利用してください。次頁（☞P.23）のピント合わせが苦手なシーンについてもフォーカスロックを利用してください。

1. 構図を決める。

このまま撮影すると、背景にピントが合い、被写体にはピントが合いません。

2. ピントを合わせたいものにオートフォーカスフレームを重ね、シャッターボタンを半押しする。

撮影距離を変えない

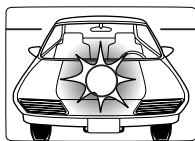
半押ししている間は、ピントが固定されていますので、撮影距離を変えないでください。

3. シャッターボタンを半押ししたまま、構図を戻して撮影する。

ピント合わせが苦手なシーンについて

次のような被写体にはピントが合わせにくい場合があります。フォーカスロック（☞P.22）を利用して、同じ距離にあるものでピントを合わせてから構図を決めて撮影してください。

■ **オートフォーカスフレームをカバーできない小さな被写体**

■ **光っている車のボディや水面など光沢のあるもの**

■ **髪の毛など黒くて光を反射しにくいもの**

■ **ガラス越しの被写体**

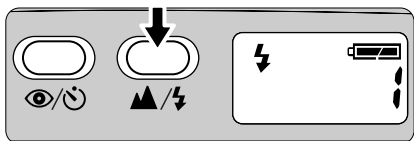
■ **花火、ロウソクの光など、実体のないもの**

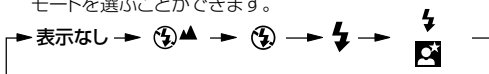
■ **ピントを合わせたい被写体の手前に、別の被写体があるとき**

■ **太陽などの非常に明るい光源**

●非常に明るい光源が撮影範囲内もしくはその近くにあると緑ランプが点滅して撮影ができないことがあります。
その光源を避けて撮影してください。

フラッシュを使った撮影

スピードライトモードついて

◉ [▲/ϟ] ボタンを押すごとに、5つのモードの中から、好みのモードを選ぶことができます。

→ 表示なし → (ϟ)▲ → (ϟ) → ϟ → ϟ(夜景ポートレート) →

表示なし：**スピードライト自動発光（☞P.26）**
被写体が暗いときにフラッシュが自動的に発光します。

(ϟ)▲：**遠景撮影（☞P.32）**
遠くの景色をよりシャープに写したいときは、ここにセットすると効果的です。
フラッシュは発光しません。

(ϟ)：**スピードライトキャンセル（☞P.27）**
フラッシュを発光させたくないときは、ここにセットすると発光しなくなります。

ϟ：**スピードライト強制発光（☞P.28）**
フラッシュを必ず発光させたいときは、ここにセットすると発光します。

ϟ：**夜景ポートレート（スローシンクロ）（☞P.29）**
夕暮れや夜景などをバックに、人物をより自然に写したいときは、ここにセットすると効果的です。

半押ししてオレンジランプが点滅しているときは、フラッシュが充電中のためシャッターがきれません。オレンジランプが点灯してからシャッターをきってください。

フラッシュ撮影の手順

1. [▲/⚡] ボタンを押して、スピードライトモードを選ぶ。

⚡(スピードライトキャンセルモード)・⚡(夜景ポートレート(スローシンクロ)モード)時はシャッタースピードが遅くなることがありますので、手ブレをおこすことがあります。三脚などの使用をおすすめします。

2. 構図を決め、シャッターボタンを半押しする。

3. オレンジランプの点灯を確認して撮影する。

フラッシュ撮影時の撮影距離について

フラッシュ使用時の撮影距離は下記を目安にしてください。

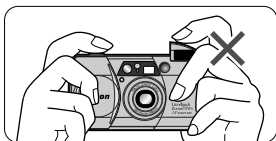
ISO 100フィルム使用時:

(広角)のとき:約0.8～3.3m

(望遠)のとき:約0.8～1.9m

ISO 400フィルム使用時:

(広角)のとき:約0.8～6.6m

(望遠)のとき:約0.8～3.8m

スピードライト部を押さないでください。指などで押し下げると、オレンジランプが点滅して警告します。(この場合、シャッターはきれますがフラッシュは発光しません。)

フラッシュを自動で発光させるには

スピードライト自動発光撮影

カメラの電源を入れると、自動的にスピードライト自動発光モードにセットされます。被写体が暗い場合は、フラッシュが自動的に発光します。

1. スライドカバーを開ける。

2. オレンジと緑ランプの点灯を確認して撮影する。

作例

- 半押ししてオレンジランプが点滅しているときは、フラッシュが充電中のためシャッターがきれません。オレンジランプが点灯してからシャッターをきってください。
- 被写体が明るい場合は、半押しすると表示パネルにが点灯し、フラッシュは発光しません。
- 上にあがったスピードライト部を押し下げると、フラッシュは発光しません。スピードライト部に触れないようにしてください。

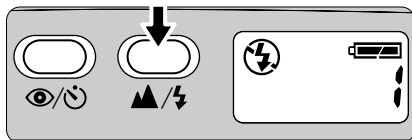
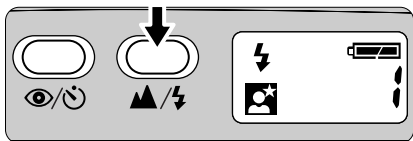
フラッシュの発光を禁止させるには

スピードライトキャンセル撮影

美術館などフラッシュ撮影が禁止されているときに便利です。

1. カメラを三脚などに固定する。

三脚の使用について
このシーンではシャッタースピードが遅くなり、手ブレをおこしやすいため、三脚などの使用をおすすめします。

2. [▲/⚡] ボタンを押して"⊘⚡"を表示させる。

3. 緑ランプの点灯を確認して撮影する。

作例

応用撮影

フラッシュを強制的に発光させるには

スピードライト強制発光撮影

意図的にフラッシュを発光させたいときに便利です。

1. ▲/⚡ ボタンを押して、"⚡"を表示させる。

2. オレンジと緑ランプの点灯を確認して撮影する。

作例

- 半押ししてオレンジランプが点滅しているときは、フラッシュが充電中のためシャッターがきれません。オレンジランプが点灯してからシャッターをきってください。
- 上にあがったスピードライト部を押し下げると、フラッシュは発光しません。スピードライト部に触れないようにしてください。

夜景をバックに人物を写すには

夜景ポートレート（スローシンクロ）撮影

夜景や夕暮れをバックに人物を撮るときに、人物と背景も自然な感じに写せます。

1. カメラを三脚などに固定する。

三脚の使用について

このシーンではシャッタースピードが遅くなり、手ブレをおこしやすいため、三脚などの使用をおすすめします。

2. ▲/ϟ ボタンを押して、"ϟ★"を表示させる。

3. オレンジと緑ランプの点灯を確認して撮影する。

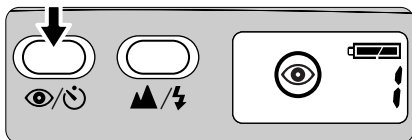
作例

- 半押ししてオレンジランプが点滅しているときは、フラッシュが充電中のためシャッターがきれません。オレンジランプが点灯してからシャッターをきってください。
- 上にあがったスピードライト部を押し下げると、フラッシュは発光しません。スピードライト部に触れないようにしてください。

目が赤く写る現象を軽減するには

赤目軽減発光撮影

フラッシュの光で目が赤く写るのを軽減したいときに効果的です。

1. ボタンを押して、"◉"を表示させる。

◉ ボタンを押すごとに表示が切り換わります。

表示なし :赤目軽減発光解除

赤目軽減発光を解除したいときは、ここにセットします。

◉ :赤目軽減発光

人物の目が赤く写るのを軽減したいときは、ここにセットします。

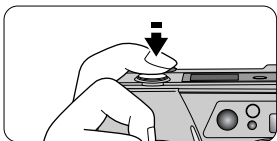
赤目軽減発光撮影について

赤目軽減発光撮影は、シャッターチャンスを優先させる撮影にはおすすめしません。

:セルフタイマー／リモコン（☞P.33,34）

セルフタイマー撮影、またはリモコン撮影をする場合は、ここにセットします。

このモードでフラッシュを発光する撮影のときは、自動的に赤目軽減発光になります。

2. 構図を決め、シャッターボタンを半押しする。

3. オレンジと緑ランプの点灯を確認して撮影する。

カメラや被写体が動かないように

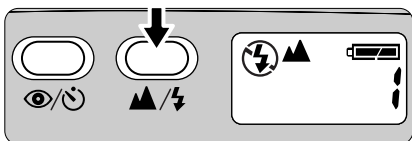
フラッシュが発光する前に、赤目軽減ランプを約1秒間照射させますので、フラッシュが発光するまでカメラや被写体が動いたりしないように注意してください。

- 半押ししてオレンジランプが点滅しているときは、フラッシュが充電中のためシャッターがきれません。オレンジランプが点灯してからシャッターをきってください。
- 赤目軽減発光は、電源をOFFにしても自動的に解除されませんので、赤目軽減発光を必要としないときは、◉/◌ ボタンを押して"◉"を消灯させて、赤目軽減発光を解除してください。

風景や窓越しの景色を写したいときには

遠景撮影

遠くの風景をよりシャープに写したいときや窓越しの景色を写すときに便利です。

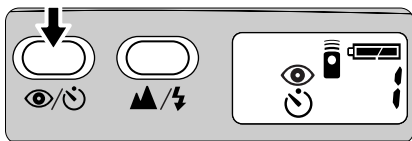
1. [▲/ϟ] ボタンを押して、"ⓕ▲"を表示させる。

2. 緑ランプの点灯を確認して撮影する。

遠景モード時は、フラッシュは発光しません。

セルフタイマー撮影をするには

記念撮影など撮影者自身も一緒に写りたいときに便利です。

1. カメラを三脚などに固定する。

2. ボタンを押して、" " を表示させる。

3. 構図を決め、シャッターボタンを押し込む。

- セルフタイマー撮影では、シャッターボタン半押し時のピントと露出で撮影されます。
- シャッターボタンを押し込むと、セルフタイマーランプが約10秒間点滅・点灯してシャッターがきれます。
- シャッターがきれると、セルフタイマーモードは自動的に解除されます。
- スライドカバーを閉じた場合も、セルフタイマーモードは自動的に解除されます。

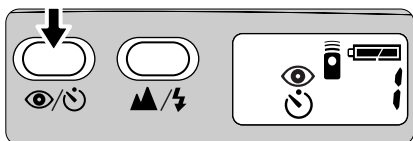
リモコン操作で撮影するには

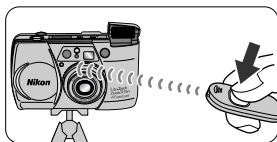
カメラから離れたところからシャッターをきりたいときに便利です。

送信可能距離は5m以内

リモコン撮影可能範囲は、カメラ正面で約5m以内です。それ以上の距離で撮影するときはセルフタイマーをお使いください。(☞P.33)

1. カメラを三脚などに固定する。

2. ◉/ⓢ ボタンを押して、"◉ⓢ" を表示させる。

- 撮影しないまま、約2分間経過したり、スライドカバーを閉じるとリモコンモードが自動的に解除されます。
- 極端な逆光状態では、リモコン撮影できない場合があります。

3. 構図を決め、リモコンをカメラに向けて、送信ボタンを押す。

- 送信ボタンを押すと、セルフタイマーランプが約2秒間点灯した後、シャッターがきれます。
- リモコン撮影後2分以内であれば、続けてリモコン撮影できます。

- リモコンの電池の寿命は約10年間です。送信ボタンを押してもシャッターがきれなくなったら、当社サービス機関に電池交換を依頼してください(有料)。

近接撮影をするには

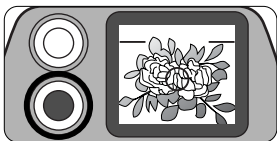
最短撮影距離は約0.8m

花などをできるだけ画面一杯に大きく写したいときに、写したいものに最短で約0.8mまで近づいて撮れます。

◎ ズームボタンを望遠側にするとより大きく写せます。

1. 近距離補正マークの枠内で構図を決める。

- 図の▨の部分が写ります。
- 望遠側で撮影距離が1mより近い撮影のときに使用します。

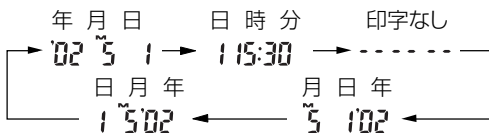
2. 緑ランプの点灯を確認してから撮影する。

- 撮影距離が約0.8mより近づくと、緑ランプが点滅して警告します。緑ランプが点灯する距離まで離れて撮影してください。

写真に日付や時刻を写し込むには

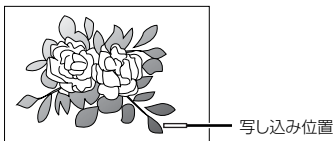
MODEボタンを押して日付表示を選ぶ。

年は西暦の下2桁（2002年の場合は“02”）で、時分は24時間制で表示・印字されます。イラストの例は“2002年5月1日”を表します。

⊙ Mは月を表しますが、写真には写し込まれません。

⊙ MODEボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

⊙ “▬”が表示されている状態で撮影すると、そのとき表示されている日付や時刻が写し込まれます。

⊙ 日付を写し込まないときは、“- - - - - -”（印字なし）にしてください。

デートの写し込み位置について

⊙ デートの写し込み位置は上図を目安にしてください。

写し込み位置の被写体が次のような場合は、写し込みデートが判別しにくくなることがあります。
●白いまたは明るい場合。
●オレンジや黄色の場合。

日付や時刻を修正するには

1. MODEボタンを押して［年月日］を表示させる。

2. SELボタンを押して修正する項目を点滅させる。

3. ADJUSTボタンを押して、点滅している数値を合わせる。

⊙ ADJUSTボタンを押すごとに、数字が1つずつ増えます。

⊙ ADJUSTボタンを押し続けると、数字の早送りができます。

4. 点滅している数値を合わせたら、再びSELボタンを押して、次の項目の数値を点滅させる。

⊙ 上の手順3, 4の動作を繰り返して、表示している桁が一巡すると修正は終了です。

⊙ 時刻の修正を行なう際は、MODEボタンを押して「日 時分」を表示させ、上記の手順で修正してください。

カメラの電池を交換すると、日付設定がリセットされることがあります。電池の交換後は、日付の設定を確認してください。

故障かな？ と思ったら

次のような場合、アフターサービスを依頼されるまえにご確認ください。
確認されても正常に作動しないときは、最寄りの当社サービス機関にご相談ください。

こんなときは		確認事項 → 解決方法	参照頁
シャッター	シャッターがきれない	● スライドカバーが全開していない。 → スライドカバーをカチッというまで開けて電源を入れてください。	13
		● オレンジランプが点滅。 → スピードライトが充電中です。オレンジランプが点灯してから撮影してください。	11, 24
		● 緑ランプが点滅。 → 被写体に近づきすぎています。約0.8m以上離れて撮影してください。	19
		● 表示パネルに“E”が点灯。 → 撮影済みのフィルムが入っています。新しいフィルムと交換してください。	14, 15 21
		● 表示パネルに何も表示されない。 → 電池が消耗しています。新しい電池と交換してください。＊	12
		● 表示パネルの全ての表示が点滅。 → カメラが異常を検出しています。スライドカバーを閉じた後、再度スライドカバーを開け、電源を入れてください。それでも正常に戻らない場合は、電池を一度抜き、表示が消えるのを確認してから、入れ直してください。＊	12, 13
スピードライト	フラッシュが発光しない	● 表示パネルに何も表示されていない。 → 電池が消耗しています。新しい電池と交換してください。＊	12
		● オレンジランプが早く点滅。 → スピードライト部を押さえています。スピードライト部に触れないようにしてください。	11, 25
		● 表示パネルに“ ”が表示。 → 被写体が明るいと発光しません。フラッシュが必要な場合は、強制発光モードにセットしてください。	24, 27

こんなときは		確認事項 → 解決方法	参照頁
ピント	ピントが合っていない	● 手ブレしている。 →シャッターボタンをゆっくり押すか、カメラを三脚などに固定してください。 ● 被写体の手前や奥にピントが合っている。 →オートフォーカスフレームに被写体を合わせてシャッターをきってください。ピントが合いにくい場合はフォーカスロック撮影を行うとより確実です。	19, 20 27, 29 19, 22
表示パネル	電源を入れても何も表示されない	● 電池の⊕／⊖ の向きを確かめる。 → ⊕／⊖の向きを正しく入れてください。* ● 電池容量を確かめる。 →電池が入っていれば、電池が消耗しています。新しい電池と交換してください。*	12 12, 13
	フィルムを入れたのに"1"が表示されない。	● "E"が点滅、または点灯。 →フィルムをもう一度入れ直してください。	14, 15
リモコン	リモコン操作でシャッターがきれない	●リモコン操作距離が遠すぎる。 →カメラ正面から約5m以内で操作してください。 ●リモコン設定後、2分以上経過している。 →もう一度、リモコンモードにセットしてください。 ● 逆光状態で操作している。 →リモコン操作の位置を変えてください。 ●リモコンの電池の使用期限（約10年）を過ぎている。 →当社サービス機関に電池交換を依頼してください。（有料）	34 34 34 裏表紙

* 電池を交換したり、入れ直したときは、日付・時刻がリセットされることがありますので確認してください。（☞P.37）

電子制御カメラの特性について

きわめて稀なケースとして、外部から強力な静電気などが侵入したことでカメラが作動しなくなることがあります。万一このような状態になったときは、電池を一度抜いて入れ直してください。また、電池を抜くと、日付・時刻がリセットされることがありますので、電池を入れ直した後には、日付・時刻を確認してください。（☞P.37）

取り扱い上のご注意

カメラをご使用にならないときは

スライドカバーを閉じて、電源を切ってください。シャッターボタンが不用意に押されて、電池が消耗するのを防ぎます。

カメラを長期間ご使用にならないときは

カメラから電池を取り出して高温、多湿となる場所を避けて保管してください。なお、スピードライトのコンデンサーの劣化を防ぐため、月に1度を目安に、電池を入れてフラッシュを数回発光させてください。

カメラを濡らさない

Lite Touch Zoom（ライトタッチズーム）70Wsは防水構造ではありません。水しぶきなどがかからない場所でご使用ください。

カメラに強いショックを与えない

カメラは精密機械です。落としたり、ぶつけたりしないよう注意してください。

カメラを保管する際は

閉めきった車の中やトランクの中、ストーブの前などの高温多湿となる所や、防虫剤の近くを避けて、乾燥剤と一緒に保管してください。

お手入れについて

ホコリや汚れは、乾いた柔らかい布・市販のブロワーブラシやレンズクリーナーなどで取り除いてください。

フラッシュは休ませながら使用する

フラッシュの連続発光を繰り返しますと、カメラや電池の温度が上昇しますので、休ませながらご使用ください。

付属の電池について

付属の電池は、購入時の作動テスト用ですので、寿命が短い場合があります。ご使用の前に容量を確認してください。（☞P.13）

低温時にカメラをご使用になるときは

低温時に消耗した電池を使いますと、カメラが作動しない場合がありますので、新しい電池を使用し、保温した予備の電池を用意して暖めながら交互にご使用ください。なお、一時的に性能が低下した電池でも常温に戻れば性能を回復する場合があります。

アフターサービスと保証について

■この製品についてのお問い合わせは

ご意見、ご質問は、ニコンカスタマーサポートセンターへお問い合わせください。
ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、この使用説明書の裏表紙をご覧ください。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、または当社サービス機関にご依頼ください。ご転居、ご贈答品などの理由で、ご購入店に修理を依頼することができない場合は、最寄りの販売店または当社サービス機関にご相談ください。
当社サービス機関につきましては、この使用説明書の裏表紙をご覧ください。

■補修用性能部品について

ニコンLite Touch Zoom 70Wsの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後7年間を目安としております。

- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後におきましても修理可能な場合もありますので、ご購入店または当社サービス機関にお問い合わせください。
- 水没、火災、落下などによる故障または破損で、全損と認められた場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、当社サービス機関にお任せください。

■製品の保証について

（1）この製品には「保証書」がついていますので、ご確認ください。
（2）「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様にお渡しすることになっております。「ご愛用者氏名」および「住所」「ご購入年月日」がすべて記入された「保証書」をお受け取りになり、内容をお読みの上、大切に保管してください。
（3）保証規定による保証修理は、ご購入から1年間となっております。「保証書」をお受け取りになりませんと上述の保証修理が受けられないことになりますので、もしお受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご請求ください。
（4）海外での保証内修理は領収書の提示を求められることがありますので、保証書とともに領収書の携行をお願い致します。（領収書がない場合は有料となる場合があります）
（5）保証期間経過後の修理は、原則として有料となります。また、運賃諸掛かりはお客様にご負担願います。
（6）保証期間中や保証期間経過後の修理、故障など、アフターサービスにご不明なことがありましたら、ご購入店または当社サービス機関にお問い合わせください。

仕様

型　名
ニコン Lite Touch Zoom（ライトタッチズーム）70Ws QD·R（リモコン付）

型　式
ズームレンズ内蔵オートフォーカス35mmAEレンズシャッターカメラ

使用フィルム
パトローネ入り35mmDXフィルム（画面サイズ: 24×36mm）

レンズ
ニコンズームレンズ28～70mm F5.6～10、5群5枚

シャッター
プログラム AE 式電子シャッター、シャッタースピード：2～1／300秒

ファインダー
実像式ズームファインダー、視野率：約75%以上、倍率（28mm時：約0.33倍、70mm時：約0.7倍）、視度; 約－1.0m⁻¹

ファインダー内表示
撮影範囲フレーム（近距離補正マーク付）オートフォーカスフレーム

オレンジランプ表示
充電完了表示（点灯）／未充電警告（点滅）、スピードライト部押し込みによる警告（8Hz点滅）

緑ランプ表示
測距完了表示(点灯）／近距離警告（0.8m以内点滅）

距離合わせ
アクティブ測距方式、撮影距離:約0.8m～∞

フォーカスロック
シャッターボタン半押しによるフォーカスロック付き

露出制御
電子制御プログラムAE、AE連動範囲（ISO100）:EV4～16（28mm時）／EV5.5～16（70mm時）、スピードライト自動発光

使用可能フィルム感度
DXマーク付フィルムISO 100, 400

（DXマーク付フィルムでISO 200は100に、ISO 800は400に自動セット）

フィルム装てん
オートローディング空送り機構、フィルム確認窓付

フィルムカウンター
液晶によるデジタル表示、順算式、巻き戻し時は逆算連動

セルフタイマー
電子制御式、シャッターボタンによるスタート、ボディ正面に作動表示(作動時間:10秒、点滅・点灯の2段階)、途中解除可能

フィルム給送
内蔵モータによる電動式(スプールドライブ方式)、自動空送り、自動巻き上げ(1コマ)、フィルム最終コマ検出による自動巻き戻し、途中巻き戻し可能

リモートコントロール機能
専用赤外光を利用、送信ボタンによるスタート、2秒後にシャッター作動、到達距離:カメラ正面で約5m、ボディ正面に作動表示、送信機電池寿命:約10年、大きさ:約60×27×10mm(幅×高さ×厚み)、質量(重さ):約13g(電池含む)

スピードライト
自動発光、発光禁止、強制発光、夜景ポートレート(スローシンクロ)の4モード切り換え可能、自動発光設定時低輝度時は自動発光、未充電時シャッターボタンロック付、スピードライト連動範囲:(ISO100の場合)約0.8〜3.3m(28mm時)約0.8〜1.9m(70mm時)、(ISO400の場合)約0.8〜6.6m(28mm時)約0.8〜3.8m(70mm時)、充電時間:約7秒

赤目軽減モード
スピードライトの発光時に赤目軽減ランプ約1秒間点灯

撮影可能本数
24枚撮りフィルム約12本(50%スピードライト撮影時)

表示パネル
電源スイッチON時:フィルムカウンター表示、スピードライトモード表示、赤目軽減表示、セルフタイマー/リモコン表示、遠景モード表示、バッテリーチェック表示

使用電源
3Vリチウム電池(CR123A、またはDL123A)×1個

デート写し込み機構
24時間制、デートの種類(5モード):[年・月・日]、[日・時・分]、[写し込みなし]、[月・日・年]、[日・月・年]、切り換えは押しボタン式、2049年まで月末、うるう年自動修正、早送り修正可能

大きさ(幅×高さ×奥行き)
約113.5×64×47.5mm

質　量(重さ)
約215g(電池別)

- データはすべて、20℃、新品電池使用時のものです。
- 製品の外観、仕様は改善のため予告なく変更することがあります。

■使い方に関するお問い合わせのご案内

ニコンフィルムカメラ、交換レンズ、アクセサリーの使い方に関するお問い合わせをお受けしております。

＜ニコンカスタマーサポートセンター＞

0570-02-8000
市内通話料金でご利用いただけます。

全国共通電話番号「0570-02-8000」にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用の製品グループ窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

営業時間　9:30～18:00（土·日曜日·祝日を除く毎日）
・このほか年末年始、夏期休暇等、休業する場合があります。

携帯電話、PHS等をご使用の場合は、**03-5977-7033**におかけください。

FAXでのご相談は、**03-5977-7499** におかけください。

株式会社ニコン
ニコンカメラ販売株式会社

YP3C05 (10)